

1. この会議の開催はどのようにして知りましたか？

- a. 日本物理学会の Web や学会誌で -----0
b. 日本物理学会の各領域 ML の案内で-----1
c. 新学術領域・学術変革領域の WEB やメンバー宛のメールで -----54
d. 知り合いの研究者からの情報で-----22
その他：研究室の教授からボランティアで手伝いをしろと言われた----1
組織委員-----1

2. この会議への参加はご自身にとって有意義でしたか？

- a. 大変有意義だった-----36
b. まずまず有意義だった-----35
c. どちらともいえない-----6
d. あまり意義がなかった-----1
e. 全く意義がなかった-----1

上記 2. に関しコメントございましたらお願いします。

- ・他の領域の方とお知り合いになれたのは良かった
- ・運営側として大変いい経験ができました。
- ・いろんな領域のコンセプトを見れてよかった
- ・物理から材料までの広範囲の物性を横断的に拝聴することができ、共通点があること、また領域が広いことを改めて実感することができました。
- ・学術変革領域 A 運営に関する意見交換ができた。一方、自分の専門分野とかなりずれているので、共通の興味を見出しにくい。
- ・全く専門ではなく、興味もなかった。

3. 講演内容は全体として分かりやすいものでしたか。

- a. 大変分かりやすかった-----10
b. まずまず分かりやすかった-----47
c. どちらともいえない-----11
d. やや分かりにくかった-----9
e. 大変分かりにくかった-----2

上記 3. に関しコメントございましたらお願いします。

- ・わかりやすいものと難しいものの差が激しかった。
- ・分野が多岐にわたり、かつレベル高いのでフォローが難しい傾向にあった。
- ・専門に近い時は理解できましたが、分野が遠いと難しいと感じました。ただ、これはある程度やむを得ないと考えます。

- ・材料の人間に、物理の話は少し高貴過ぎましたが、それも領域が広いことに気づく良い機会だったと思っています。
- ・全般的に、このような学際的な発表の場においては、専門外の聴衆が一定数存在することを理解し、背景について丁寧に説明すべきであると感じた。研究の位置づけや意義が不透明な発表が多かった。
- ・代表者以外の講演者がお話しされた内容はもう少しわかりやすく説明があっても良いと思った。
- ・領域のチュートリアル講演があったらよかったと思います。
- ・昨年も参加して感じたことですが、この研究会では、通常の講演ではなく、分野外の研究者にむけて学術的意義をわかりやすく伝えることが重要です。いきなり各論の詳細の説明に入る講演が散見されましたが、「何が学術的に重要な問題なのか」をまず説明し、残りの時間で必要に応じて詳細部分のエッセンスを話すことが必要ですので、このポイントを各領域の講演者に周知徹底していただくことが必要と感じました。
- ・化学が専門分野なので、固体物理系の専門用語、表記をわかりやすく、説明してほしい。
- ・専門家たちの話といった感じで専門用語が飛び交っていた。
- ・当たり前だが、物性物理の専門家でないとう理解するのが難しい内容だった。

4. 会議期間（2日）は妥当だと思いますか？ 回答数 77 件

- a.長すぎる-----4
- b.ちょうどよい-----72
- c.短すぎる-----1

上記4. に関しコメントございましたらお願いします。

- ・2日間という日程でちょうど良い気がしているが、3日でも特に長いとは思わない気もする。
- ・領域数を考えるとしょうがないかもしれないのですが、時間が少し長かったかもしれません。
- ・週末がかぶらない方が助かります
- ・2日間で開催するのであれば今回の14領域程度が上限のように思います。新規参入が多くある場合には検討が必要な可能性があると思います。
- ・参加領域数が増えてきている。学術変革領域Bは構成メンバーが少ないので、発表時間を学術変革領域Aよりも短くして良いと思う。
- ・今回所用で初日午後のみ参加でしたが、有意義でした。来年は2日とも参加できたらと思います。
- ・参加した研究者たちが大変有意義であったと言っていたため。

5. プログラム、若手一般講演、その他会議運営全般について、お気づきの点がありましたらご記入ください。

- ・若手のポスター発表時のポスターボードの間隔が近すぎる。あの間隔でやる場合は偶数番号と奇数番号で発表時間を分けるなどしないと窮屈である。
- ・とても行き届いた会議運営だったと思います。どうもありがとうございました。
- ・立派な会場でスムーズな運営でした。ポスターセッション会場が隣接しているのも良かった。

- ・ポスター審査担当の先生方への当日アナウンスがやや不足していたように思います。
- ・オンライン参加者は、一日目は数名、二日目は多くて 8 名程度でした。次年度はハイブリッド開催について再検討しても良いと思います。
- ・ポスター賞はスタッフから学生までが混在しており、評価が困難でした。
- ・2 日間とも平日に開催してほしいです。また、1 日目の懇親会の時刻を早くしてほしいです。
- ・若手が相互に発表・聴講できる講演プログラムにすべきであると感じた。
- ・zoom で聴講しましたが、音声・ビデオともに申し分なく、かつ会場のビデオも同時配信されており、質問者の音声と様子を見ることができましたので、遠隔からの聴講についてもとてもよい会議運営を行われたと思います。来年以降もそのノウハウを継承していただければ幸いです。
- ・ポスター発表だが、1 領域あたりの若手奨励賞応募発表数 8 件を減らさないと、審査員あたりの審査する数が 7-8 件となり（審査員数 28）、2 時間の審査時間では審査するのが困難である。また、逆に若手奨励賞応募発表に審査員が集中し、通常のポスター発表に人が集まらなくなる。
- ・参加者がもっといてよい。今回はあまり宣伝されなかったように感じる。広く若手が参加できるよう、ポスター講演を多くする。領域に属する場合は、ポスターにロゴをいれて欲しい。ポスター賞がどの領域に与えられたかがわかるようにスライドで紹介して欲しかったし、タイトルもあった方がよい。（授賞式では紹介されたかもしれないが、懇親会は欠席したためわからない）
- ・日程調整にはご苦労されたと思いますが、できれば平日に開催していただきたいです。今回、前泊する必要がありましたので、休日が 2 日潰れました。
- ・運営している学生に対して正当な賃金が支払われていない。
- ・ポスター発表は前半後半と発表者を分けた方が、ポスター前の混雑緩和や発表者自身が他の発表を聴きに行く場合などに都合が良いと思った。

6. 物性科学領域横断研究会に期待・希望されることは何ですか？

- ・非常に有意義で貴重な機会だと思います。今後とも末永く継続していただけると嬉しいです。
- ・幅広く俯瞰するために重要な研究会と思います。ただ、土曜日は参加しにくいので、今後ご検討いただければと思います。
- ・異分野間で刺激しあって、新しい研究が生まれることを期待します。
- ・このままでよいと思います。
- ・各領域の内容を紹介する時、今後の発展と共同研究可能の内容も紹介していただければありがたいです。
- ・この研究会からスピナウトする共同研究があれば、支援する体制・予算があればなおよろしいかと思います。
- ・他領域との交流、相互理解
- ・今後も、オンライン含めたハイブリッド開催がよいと思います。
- ・他分野の研究者と意見交換をすること。
- ・異分野研究者との交流

- ・ zoom で遠隔から聴講できることは、地方大学の研究者にとって非常に貴重な機会ですので、我が国の物性研究のボトムアップの機会を提供する重要な意義がありますので、ぜひ来年以降も継続していただくことを希望します。
- ・ 対面での開催の方がオンラインより個人的な交流ができて良い。
- ・ 若手、シニアともに交流が広がり、人が知り合うこと、共同研究などの芽が生じること。大型プロジェクトや凝縮系科学賞の水準が高く維持され、物性分野の希望や意欲につながる場としてあり続けること。
- ・ 参加者には参加費を求めて、運営している学生に給料を支払うべき。
- ・ 今回は各領域の関係者のみへの案内でしたが、以前のように、各種 ML へアナウンスをして一般からの参加を受け入れるのがよいと思います。
- ・ 他の領域での取り組み，研究について知ることができ，交流ができてありがたいです。
- ・ 領域間での共同研究を議論する時間があると面白いと思います。
- ・ 領域を超えた新たな共同研究先の発見など

以上、アンケートにご協力頂きありがとうございました。

今後より良い研究会を開催するために役立てて参ります。